

<意見交換会>

大学院教育から考える 高度実践看護師教育のあり方

看護学教育の高度化は急速に進み、裁量権を拡大してその専門性を発展させる時代が来ています。安心安全の医療を国民に提供するために、高度実践看護師教育に求められるものは何でしょうか。将来を見据えた意見交換会を行いたいと思います。

開催日時：
2013年3月30日(土)
11:00-12:30

開催場所：
新大阪丸ビル別館
5-2号室
(大阪市東淀川区東中島1-18-22)

【次第】

11:00 趣旨説明 太田喜久子 (日本学術会議看護学分科会委員長)
11:10-12:30 話題提供と意見交換

【話題提供】

①「我が国におけるAPNを目指した教育実践実例」

野川 道子 (北海道医療大学看護福祉学部 看護福祉学部研究科科长)
塚本 容子 (北海道医療大学看護福祉学部 看護福祉学部研究科教授)

②「APN大学院教育での病態、薬理、フィジカルアセスメント科目の導入における課題」

井上 智子 (東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科先端侵襲緩和ケア看護学
看護卒後教育によるmid-level provider育成と医療提供イノベーション事業 主任研究者、連携会員)

③「APN大学院教育のコアと実践を保証する教育とは」

クローズ 幸子 (亀田保健医療大学 学長)

④「がん看護学領域の高度実践を保証する大学院教育とは」

内布 敦子 (日本学術会議看護学分科会、連携会員)

<主催>日本学術会議看護学分科会、日本看護系学会協議会